

## 第 6 回 山鳥坂ダム環境検討委員会の 意見、質問と補足事項

国土交通省 四国地方整備局  
山鳥坂ダム工事事務所

第6回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年7月9日開催）の意見、質問と補足事項（1）

No.	分類	指摘事項	第6回委員会における回答の要旨	補足事項
1	(環境) 動物	クマタカの営巣適地に共通する環境条件として、標高、傾斜角度、隣接つがいの巣からの距離、植生とあるが、植生タイプの適性度のランクを具体的に示せないのか。	植生のタイプにより、大きく3つの好適度の区分に分けている。 Aランクが自然林とアカマツ・モミ林、Bランクが二次林、Cランクが植林である。	
2	(環境) 動物	営巣適地の後に落葉広葉樹林などの樹林のタイプが記載されているが、1番最初に書いている樹林が1番重要なのか。	順番は特に関係ない。クマタカについては、4つの植生分類を概ね広く利用しており、その全体的な割合から2.9%の改変というところで評価している。	
3	(環境) 動物	原石山・建設発生土処理場・施工設備の改変後の跡地の利用計画はどうなっているのか。	原石山跡地はほとんどが貯水池内となる。仮設備跡地や建設発生土処理場は森林状況への復元、移転の代替え地及び公園や公共施設等になると考えられるが、今後地域振興計画の中で検討していく予定であり確定していない。	
4	(環境) 動物	オモゴミズギワカメムシは、ダム堤体より下流部には生息していないのか。	ダム下流の小田川合流点まで調査を行っているが確認されていない。	
5	(環境) 動物	イモリなどの水域の生物の場合、その生息環境は樹林ではなく、水域の溜池等が生息環境であるが、それらの水域の動物についても種の生態に応じて、生息環境を区分し改変の程度を把握しているのか。	河川域の予測の中で典型的な環境として、沢筋などの改変の影響についても検討している。詳細は次回の河川域の予測結果でご説明する。	陸域の水辺の生物についても、重要な種については種の生態を考慮して、水域の生息環境を推定し、その改変の程度について検討している。
6	(環境) 動物	オモゴミズギワカメムシの保全措置は、移植の方法、定着後のモニタリング方法等について、より具体的に検討しておく必要がある。	図示している移植候補地には、現時点で生息が確認されていること、またオモゴミズギワカメムシが好む大きな岩場があることから、移植候補地となり得る可能性があると考えている。	今後、詳細な適地選定の調査を行い、移植の方法、モニタリングの方法についても検討する。
7	(環境) 動物	オモゴミズギワカメムシは、現在生息が確認されている場所に移植するという考えか。	現在、生息が確認されている箇所周辺の同様な環境に移植することを考えているが、そのような環境があるかについては今後確認し、適切に保全対策を実施していく。	
8	(環境) 動物	オモゴミズギワカメムシに適する生息環境があるのなら、既に生息していると考えられる。移植先の生息環境の整備をして移植してやる必要があるのではないか。	今後、詳細に確認を行い、好適と考えられる場所がない場合は、生息環境の整備について検討する。	
9	(環境) 動物	移植候補地の上流には砂防ダムがあったと思うが堆砂しているのではないか。そのような場所は移植候補地として適さないのではないか。また、砂防ダムは撤去する予定があるのか	砂防ダムは撤去しない。砂は堆積しているが、砂防ダム付近のみであり、上流には生息場所となる岩場があり、候補地となる可能性があると考えている。	

第6回 山鳥坂ダム環境検討委員会（平成18年7月9日開催）の意見、質問と補足事項（2）

No.	分類	指摘事項	第6回委員会における回答の要旨	補足事項
10	(環境) 動物	植松堰から上流や左岸の支流は、移植候補地としての可能性はないのか。調査をしていないのであれば確認したほうがよいのではないか。	対象事業実施区域内での候補地を確認したいが、見つからなかった場合には、支流や対象事業実施区域の外側も含めて移植候補地の調査を行う。	
11	(環境) 動物	オモゴミズギワカメムシの移植にあたっては、環境収容力の問題があると考えられるため、現在の生息場所には移植しないほうがよいと考えられる。		
12	(環境) 植物	植物の移植候補地は、民有地か。	今回、候補地として挙げている箇所には民有地も含まれている。樹林は民有地の場所が多い。	今後、詳細な適地選定の調査を行い、移植候補地を選定していく。
13	(環境) 植物	オモゴミズギワカメムシの場合と同様に、植物についても生育環境ごと移植すると考えか。	詳細には今後検討を進めていくが、当然その植物1つだけを持っていくのではなくて、生育基盤も含めて移植するものもあると考えている。	
14	(環境) 植物	植物の移植先の環境は、元々生育していた場所と同じような環境になるように整備するのか。	基本的には同様な環境の場所を選定して移植することを考えている。 カビゴケについては、葉に着生しているので、着生している樹木ごと移植することを考えている。	
15	(環境) 植物	保全措置の対象種19種のうち、11種について事後調査を行うこととしているが全種について事後調査をした方がよいのではないか。	移植の実績や同種又は近縁種について、栽培方法等の知見があるものは事後調査の案件に該当しないと考えている。ただし、移植後のモニタリング調査は全種について実施する。	
16	(環境) 生態系 上位性	オオタカ等の狩り場環境について、落葉樹林、常緑樹林・アカマツ林等の区分だけではなく、より詳細な狩り場環境について把握して欲しい。		
17	(環境) 生態系 上位性	オオタカは今あちこちで人工巢が実験的に行われており、保全策として念頭においたほうがよいと考えられる。		
18	(環境) 生態系 典型性	移動分断の影響について、どれ位交流があれば十分かははっきりと分からないが、遺伝子の交流が全くなくなるのは影響が大きいと考えられる。山鳥坂ダム貯水池の出現による影響については、哺乳類から見た場合、全く左右岸の交流がなくなるとは考えにくいのでそれほど影響はないのではないかと考えられる。		